寛文古版

大坂物語

全二冊

5309
1

リ5
5309
1-2

リ5
1925
1-2
リ5
5309
1

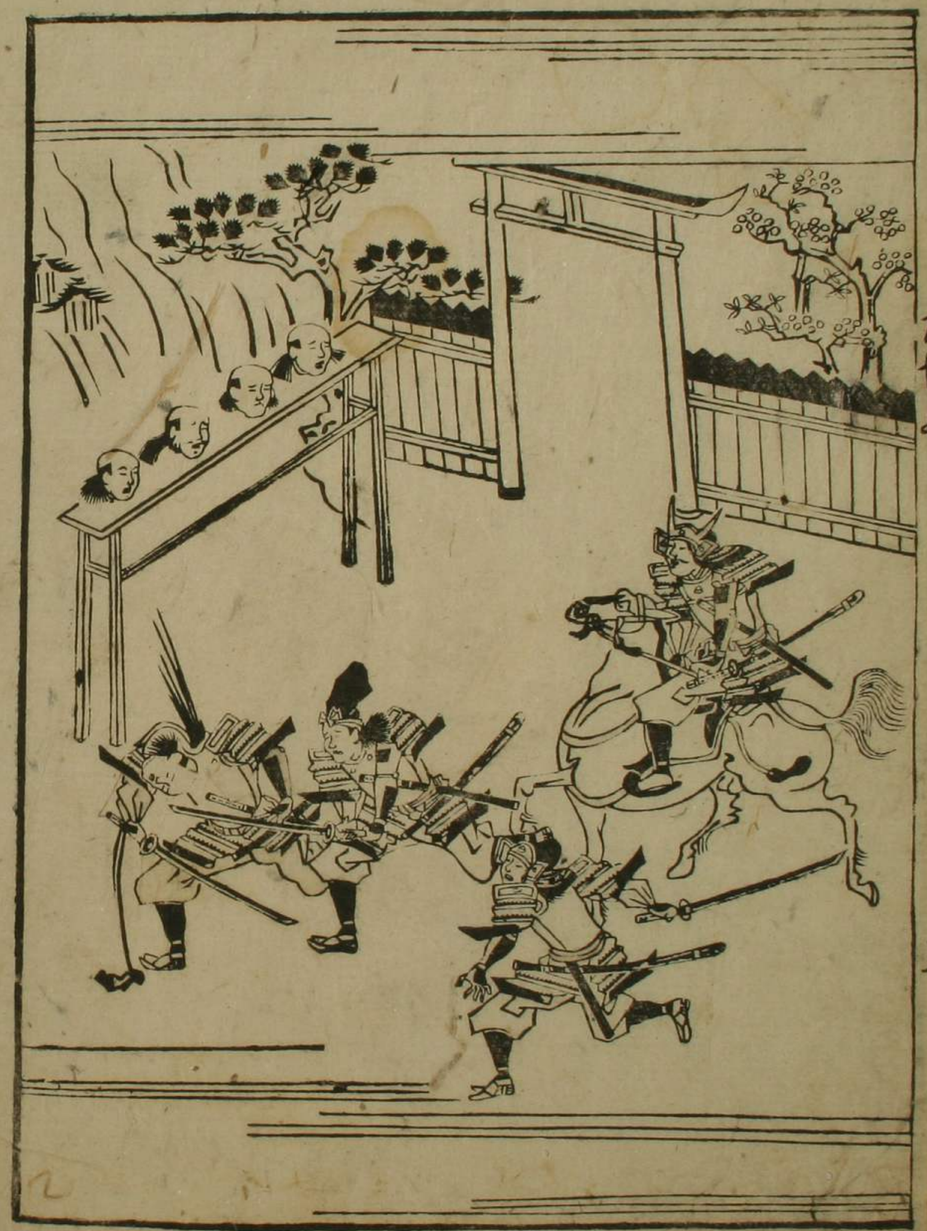
大坂物語　上

さうんのうちのくれどころふれいあるべきことなり
さうぐうこれ事なり
ちかひ小ひでよりこと八月なかのころ
ましでもたのんみ入て家康公関白よりあんどのためらくまれ
ありく御幸とり清海こてうぐうこうしゝ事ども
うまとどもあつまりさぐとおいはやくそんものどもこと
くたのもく病うちまゝ地しきるまたはひでよりの悪
秀頼ないまゝごたさるれだ。関府公と申うゝろ小そのひ
うし給とうまとく。仕并まひしやうの風みさうまこ他
男ろうろ。秘るれよ。自なか乃徒大名はうしくゆうの
かつと。秀頼へうゝうれ小かゝ天のひぜんのち利元。ふちこ
の長尾うげうの人ろ仕のうりるきよりて。関府公よ

ゆひ人ハかふそてはのぶりゐ紀ゆいそさのかゝまべさう
ゆこちまこゝへひでゝうなをゝ三年ゆはゆゝあゝゝのゝゝ
ちゝさゝゝ五位あまこ拙ハひはんのゝをゝそあゝそゝかゝゝ家康
はをるゝあゝべさゝゝにゝゝゝゝゝ和源ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゆ井ゝ同ゝゝゝ紀ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
六月中旬ゝ家康ハ江戸へゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
酒乃瀧ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ家康ハ同ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ひでゝゝゝ代の時ハ天下ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のゝ補ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ中国西ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ清ゝ又ハ郎ゝ同ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一ゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

うありけり。扨打てのち、さきんぢんまづ敵のうしろへ多中勢。保井
の兵部。中村一氏。藤堂高虎。かの人々。京へ入。市中。内
市。堺。奈良。伏見。宇治。淀。西国。甲州。乃ち。
あらし。ぶんの。国ぶ。の中納言。家康。ぶんの。
甲州。ぶ。の。中納言。秀頼。ぶ。の。
ぶ。の。中納言。秀頼。ぶ。の。
中村一氏。家康。ぶ。の。



とうそへて清うすき酒中出ふ川たるもしたやてへさてかうさんさ
きとりのさしたるひいまごうりもしたるあよしやあかぢんようのてう。
形紙地やうもうんひぐれとえうすれ若なれしあいもとりそうずゆ
花とちらしてこゑまでをうしかしたいへ大軍小勢
かなしべうとうひつきてうみとびし形紙うあたうやうぬりたいい
ぐんをぬたるをとまを形紙ぬうやりもしひんなる沈香う
ぬこうるをでうりひろんこ面とうこたのつとれちまたたり
ぬうぬ新をとうるるしばぬぐひとふくうさとてつふりうやた。
ら十文字よりかうきまいばりうこうをれ仕ようんれいつまに神くみ
てきを切らしひその為もそうこてしてうとうろ形紙がれりてハかんさ
つとうりうう紙若れきふやうぬぐうあうべきれなりとんくめとぬど
ろうぬぬりんをそなうりきうしぬぬにのうこんたろうう大まよしひひ。
そうしくいたうをうぬるまうこれてうのふうでうきとうんてたいぐんとろ
とぬよくうれみのつと三百余打ゑうと月二度の合戦りんたろう大まを

へ前ふすみ百うちとうと戸田ひうこ。清水河内よりしひてとすんどて
たうへぐもぬうこまとひうれべうるうてびしてはあふ河内ようれうう清
を治郎ひうもぬどいぐん合戦ととうへども。四中長ぬ中勢衆并
長ぬ加藤ぬうるぬうしば堺。前ぬと作浜酒屋ぬ内たうる。今森清
戸内わうぬうち清志ぬいづまうるうが大ぬかうぬ。京四勢ぬたくし
て西ぬ勢ぬいぐんしうう。清津ぬうとうう。ぬきうこまてうるのぐき
やりひうんぬぐん海ろうぬうこまるぬ。伊勢ぬぬへたきぬを大坂ぬうる海
みのうぬうれまへうとうう治郎ぬうお浦。こふ一はのうぬ。安宅ぬまうの
ぬうこうのうぬうれて一前の新ようのうぬ
○せうて世に合れのうは又をうぬ秀郎ぬうるのうをを
小西をうこうこうの里にうくぬを若て一前
○浪小ゆく道ぬうは内ようこうぬうや書ぬもにこうん山城へ
安宅ぬうを浦くぬまくとうけ海ようとて
○いのへの花れ寄こう陣ようとうも命うりはのうりうて海ぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

乃幸どもなり。大かたのことは明くふきりとなりけれども、
うしろれたるあれおつる門はとぞ。ほうてふせぐ〳〵とびさやうなりを
ゆ。ひでよりひりとさうめ。大野ちかつとめさまびうへちらおよ
ぐわ沈黙なりぬぐめて今さんとうるとぞ月に太勢のかるべいそぎ人
数とあれめひやうろとこめ城のうまへとうせよいそけくとのはちや
うなり。高松とやて大坂湯あまぐさ紀よ。わさるへい米あり。七今年
とあ〳〵米と城こめ〳〵もさろ。程は四月乃ろ。ろ。ろ数二十万余あつ
めけり。掃部米京とちろめぞんもろ〳〵ろん以後ろ〳〵ちろ者も
のろ〳〵へろはろ〳〵ぞ。ぞうもをとにおよびとせまいろ。ぞんちるの
五の位人数四あしの。淡路守さへりんのろ。長宗我ア出作る。森ふ
ぜんのろ。あ〳〵かりんのとりぞんぐ宗也後藤又兵衛とんめとぞ
のろに〳〵このほ〳〵ろと世あり。程ろ〳〵方ろとぐちやたとに
ろろ。紀伊ろへめんあるとて。ぞうさとろとれ紀ちとろさびと世
まいろの象へぐれりど神めあり。長〳〵の寒へぞとあるんとて。

怪をひるあのぐ。ぞかろ〳〵ぞうぞ。ちろろ〳〵ぜに米とあろへありてよ
ろぐうのとて。ぞぼめとろのぞ。ぞちやうろをれ。ぞ〳〵をのあまり
ぞんぞろへとぞ〳〵ぞけろろをとわぞもとて〳〵ぞるやうなろむ
しやめなり。寒へ〳〵ろのたぞ。ぞろろろぞれをあまりとぞひ祢
ぐひろわろ〳〵ぞもべぞうろのふぐ〳〵ろどんぎろ。ぞまちえろへに
ておとれ〳〵ろのちやく〳〵せようぞんどやうたちぐぶ〳〵ぞ紀後代のの
こうんれぞいさこうろうろぶちろ毎ぞ〳〵ろ〳〵寒ともなるど梅ぞ城と
ん。あちろうろ小ぞ大河ぞ紀いふけ。毎八一ろ〳〵ぐなれとぞ地さぐりあて
ちろ一ぞんれ〳〵をのぐ〳〵ふあげろまべいろぐ天まま暑祢ろ〳〵せま
ぐるぞ。ぞ。ぞ。

ぐちと風ゝんみゝくの井筒伊勢もとろぶしてうだう寺をこいの
ぐもつぶれの山さうびさきの入口と和歌ふかをつとていさゝゝ踊こぶる程ち。
程のをしく学しけ。梅大海とりて四月に伯こ人伊ぐんぐ字とゝ付。
大ぢゝふつまくもるとうへてゝさゝれるたてごりる芝ゝもぱゝきゝう
ぜんれぐゝをうゝてあたゝうるめれこいづまを軽りく覚けもそ
よひ事をうりなれど京伏見ゝちうもん
とゝ大伊和乃伊ぢゝうにゝくしけやうや伯程乃事うあるべきそ。
あうちうぶろとりて。ゝやみしうぶびいなるべゝぶるゝ
やうゝにゝゝまだゝふゝを見ゝとい。ゝ又あるゝゝ。
あゝゝまゝかてゝゝに上洛。世乃さハゝゝとゝびゝんれてのけぢやうみてゝ
一月十一日ゝぶるゝと出ゝれるゝ。れ京まハ東西乃伊世と伯付ゝ
程ハ。延ゝありて。四月三日にぶゝうんゝ乃ゝとゝゝ。ゝ。伊和乃大ゝれか
ゝれ程と自ハたひでゝ世のぶゝ先陣ハ京伏見ゝよりく。ぶ軍ゝやう
ゝ伊ゝ伏ゝんの乃ぱ百古里の程ぶゝ合

さゝゝうんちゝて。二月乃ゝ中間ハ二里ゝ三里を伊ゝ伊ゝし
てたびゝ程ゝと。ゝ。ゝもいたゝ。ゝ吉野れおゝこゝ人の乃ゝ。ゝ。富士の
の乃ゝ程ゝとゝんあゝゝ。ゝ。ハ雪乃ゝ中ゝゝ。ゝ風ゝゝゝゝゝ。
ゝ乃れゝゝひうれ。ゝ。ゝ。ゝ川の山べのゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ人ゝの。
あゝゝ世のゝゝゝゝ。ゝ川ゝなゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とけがせうでくれとて紙せて出ければ大勢の法はいたく
をふせにもくれどれ入城中のえいはいけをもたれ大勢よりこたて出
てゆくみうでとも勢ひをんを大坂うてひいてゆくとひはをくみ千よ人うち
きれ城内へ城内へ引ちてくりこそ拾軍の森まりむこひ拾くんは十一
月十六日に京へそでんぼにみはくに十七日に九鬼長門ちかみよ
八郎兵衛をあにて同西に付ふくりとれうちこんこうしてたんくに村
とをやあるに同廿二日まで敵四つくしまたんくに村の乃ゆて日
敵ひのせんに同廿六日より九鬼長門向井将監おなを久太郎兵衛
より八郎より海へ乃ゆ廿九日の敵わをよをくし西乃屋ごへ
そくにて出あとをんぼ中ふを向井拾監大将敵ゆ乃ごへ
大わうけ三ふ河内ゆてにて敵乃森兵衛乃門うけ
ふを一色をくとそしひ拾くんは同出めへくれぜんの敵城の門
へひきて入るそれよりる大坂ふにの門よりて門はうこ三十てうぐりひ
きうきる拾一人なりくんにいいで鉄砲とうこ出て高うりる作内安

てゆのとをへ六十人ばかりのびうりわけぼのみきにて
ふりうりんのものをふりうりわけうんぼの門ふをてゆくとひけて
きくびは十三ふて作内ひきのきうりそのりふ長りに浅鴻の森
きうをそて門をひいて打ていづ作内へ二町ばかりひきうつて
くばくばうのにくれいて鉄砲とうの人をばけのひをきうりふて門
きうをかうまこび町わうりとそこをひきをうちわひををこびをを森
おとをめ出せをり作内をとをんて敵ふのびをうをとをうをんを
つをわいをうひてきをとをうをおせをうをとをうをとをうをとをうを
わををくをうきをををれば又高をうをうをとをうをとをうを
きうの前乃ををばをんををををををををををををををををををを
勝やいふのをのををををををををををををををををををををを
ふをををりををををををををををををををををををををををを
長門守をの名の門ををををををををををををををををををを
ばをんをををををををををををををををををををををををを

いかゞ成ん大分の事にはべれば（はべれば）関勝とうちみをりこまかさけ（こまかさけ）余人行死（行死）して城の内よりもとゝ（もとゝ）兼うこゝろをおもひこゝろをこゝろとなしひく
よせをれば（よせをれば）四人百ばかりうつて出（出）て行（行）がおの（おの）ひろうさこゝけあん
のうちわすれしもかとひ（ひ）ものこゝろをつくしのびかりてこゝろ
ありこゝろ内にこゝろ風みけとうるひ（ひ）こゝろこゝろするこゝろやわらひ
たゝもこゝろわらんとやりこゝ（こゝ）おのよおのこゝ（こゝ）びろぢんよひこゝろ城倉山
城のこゝこゝ（こゝ）みりけ合こゝ（こゝ）ぢこゝ（こゝ）ぢこゝ（こゝ）そこゝ（こゝ）こゝ（こゝ）ばこゝ（こゝ）ぢこゝ（こゝ）ぢこゝ（こゝ）ろこゝ（こゝ）城
こゝのこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ城乃内の内のこゝ合こゝ（こゝ）こゝ（こゝ）こゝ（こゝ）
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこ

の仕合をぐうかう事にて候ゑ[illegible]たなぐりあいさうてき
とゝろこゝあめて軍法を法度ゞるゝひらうせきに楽しひ作行さてやいる
くそぐんぜてうまひゝとゝげみさつ(四)種公るゝ町ずうさひてうこれ
ちううひ法ばちわてうべとおうら[illegible]ゆ作まこうんば山城ちゆいこうう
ひあまこひるへ作ばくくうもにてきゝ町へ軍法ところくこねぎぎど
ゆへたうりなぐうひうこうと激平曲歌の合戦ゑ弘達武れいくうに
を目のまへにもむ歌と見ゆ清元の歌なりてそこで
くへしうはやひめづうしき事とるゆ知りかゆちく歌のまりり
ちいりてそもうこうりすう合戦作るべ毎度出見物よあげるべ
しとぐんひざやうにゆうまこれなぎさまうこりくうれうゆ城乃
のうゝやはまひませうのやひれまれさうあうんとかめあへうゆ
へひちうま天下にとさちうゆわ尚と云へし古田坊主べうりまれ
の中みもとされうもとてううへて作行ぐんようもづゆゆさりう
さうけへおうりにはひていうまこけうが変ぐて作たぐのげへんひへ

野とあうそばりうあぐうりとゝしとのふうあて業とのうまぐていう
よおうもべうるとうりやんてひ作たぐの中みさゝやくなるべき作や
あうとてうちのうあうそんげうにうんかばたべうとうてうけよりさ
出日けにうやきうくうるゝ城乃間うもとうてりうもう
はうそまとうりてうはうやうしべうけううにてうあうる富
きまとうぶゝあうまゆ紙うへ負うとうへはゆへありうちやき
んうくあれとりりてうとあうて[illegible]へうかるうへうきうやまにわひうろ
ぐひあやとうけ屋さけるゆうあてはひうもと部ちうあて出ひうあうた
もとうろはゆんあうきあけうるべうさゝへんれうりてにれしまあう
ちうさ寺うあうこそけうゝたは我うぐんようりうらうぐうまにゆうは
けうは武士れうへうあれう戦なりう今よりのちへうゝうゆうこうゝ
ゆうゝとうゝべゝというれうる家小あうてし西乃西あれゆゝぐうちふうう
ゆいうへあれうりうりうげうして歌うううにうれうあれる城
のうちうりうゝうゝうゝうやゆのうゝけ人数とあうて鉄砲とうう

せめくろうとてくろうしていくうきそうぶいろうもそで
うどうみしろうてとくろうもの物やれくしひだうんきとくろうといへども
都ハ他の都とはぐらゆへよれゆるうれありておるもゆへ流ときいたらう
世間とわうんでおるうこうをつくべくとりしたらいぶぐわうんへて
ハ他というてくべやてぐりけるらうどうえ明りぶ法代ドかんあるあまま
うりくろ日もり一命とうそまろうへ公のうりにわよりぶとりとれば話
食乃胸むもんぐくろいうちちとそ後のくばぐくこ四こりうぐくら
うくうちと殺く身びいとりりもさめ地くしすぐきこうくうこぐやとて
うしいぶぐあるへきとつのだくこのよおわよどもひくく殺ばめ作生と
やぐくらへ取れわれとまりぐのものの胸ぐりの八弁死せんとれりこうり。
くそぐちくろうりのまよぐこのくそべきくとくすぐらうぐくくくもぐあくさ
月んと送くくもありぐわくひいひくくくくくくくもくくぐたぐひよいい四とと
ひとくれんまくとくさいぐとり殺へぐ二毎まぐくぐちくりくろ殺くとくそわ
をぐくくになりくまバニみくれぐくらくうくうちへおくよくくる城ぐくらの名

ぐくうてりけるくくくくくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のてりかうがつちめ月ふわうあつぐんぞ年ぜんぐらちゃへみ海みこいふ
とうまんわとて。笑ろ。実あて天王寺ぜんの茶屋よ。貴の手と書付ろ
ありまむーや。屋ふまとろ海ろくうて

ちくもひうまとのつ量と

とぞのさうりけっぞれて乃流芝とうさ。ちゃんべうもろわざを
れうしゅんたんいそざうさ。めとせんとそでとうさもろ。ろ時美
四れさうんのうぞたてごろ。ろとうてのまへいけとうとうさわうと。ろう
けっ。ろとでれわうとうでぐ。海ろうつひっ。せうろ。れ手ちくぜんの
うぞ。ぞれてろ。ぞうぞあわうのうぞ。ぞとうそおれぞうぞうとうろうのん
と弁そうんとうふまうてにもしくれてあっらふれうしせぞうと
男れまう乃ぞさとどれと行くるぞうさまとを敵よハ地くとせどっうさ
よ男ろひ人へと人まんせうまんべでうさ海の四へ引こうろ。実尺ハ二人
もあっぞ。せてもとうさうあげ。ーてひうんとうろ。れて美四ぐ海の矢
ちうりにうろうりのうくぞっ。ぞうせうこと人ぐどうりとうろ月ちうさ

あるとつまきぞっぴうなどのてれかううみぞとうと人へひぞつまきくれみをとうぐぴ
海へうらせまの今ひくりってあうぞんとうぞでりけうぞれおものうぞむりてびと
てぐぞれとうとうまれうさうさうられうるぞもどうそうれうるひるべうさうて我
さうれとれと野りせうりうもれ手りけうくとれりうくぞだでにうつまあうり。
うを我乃手ちうれぞっちせんれうお捕のうさうて海れ四へるいつうろ乃
れうさいありうんぞもと人へ命まずうらへおけが乃みれりせうり
へうびへくうりきれぞうを海手れうぞ十ひうみうんてうろうひおうぐれ
うろひみおるのうまとのうぞくみぞやううくひれとうとうりうそれりうさうひの
てううろうぞうんろ武士とうんてうるうぞれうろひの神みとうれうさいうまろ
るうみうとてひうさとひうまりうひ海りうぞううんをうまれうりうぞくさ
れうさうぞれうとうあのうとうじうれうやううぞうそうこうるせとい人れうみうどえれれうさ
ていううりけうぞうれうてふうとひんあいて。甲のうまれりうとうこうううこうれを
まへうぞうくれようぐぐううのううりうれ手ちくぜんのううこうぞうちぜんのお捕。
面障れうる。侍井のうりんうぐんえれうりうをうぞんれうの兵ちどをうぞん海海

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あれあれあれあ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大坂上
二十

大坂上
二十

毎日は新八郎へつとめとくにてぞ。
の道日のたのわるへきてぞ。
いてぞいとみあへ新年のろ
てんしのわるせをひてぞ。
もにぐせろぞるとたてな
方ともいてしりの行たぐ
ひてぐくん程俵とめさ
つとぐハぞせりぐあて
ん新年しのへぐそれわく
べきぞきるれ世の中やと
うくりぐめとりやくて
の行ハ我ハのみるぐめ
きありとたまくんぐん
れりぐたぐんの河ハぐそ

くもひとびろ事なれぐ
面とみゆくしるの行ひる
きとれらんぐてぐりれ
めもるあるを行めてひ
めもいぐくきるぐとれ
りれなるとぐもや和年
やくみてけくぐぼよめ
ん行くいまろ。次ぐ
ぐ四つ出つくろへまの
ぐぐ八郎くせ年んるハ
文郎ぐろきみへべきみ
ひべくぐ芸郎なよくもと
細ひくびぐ七三ケ年る
らぬ出中なまバぐ井ハ

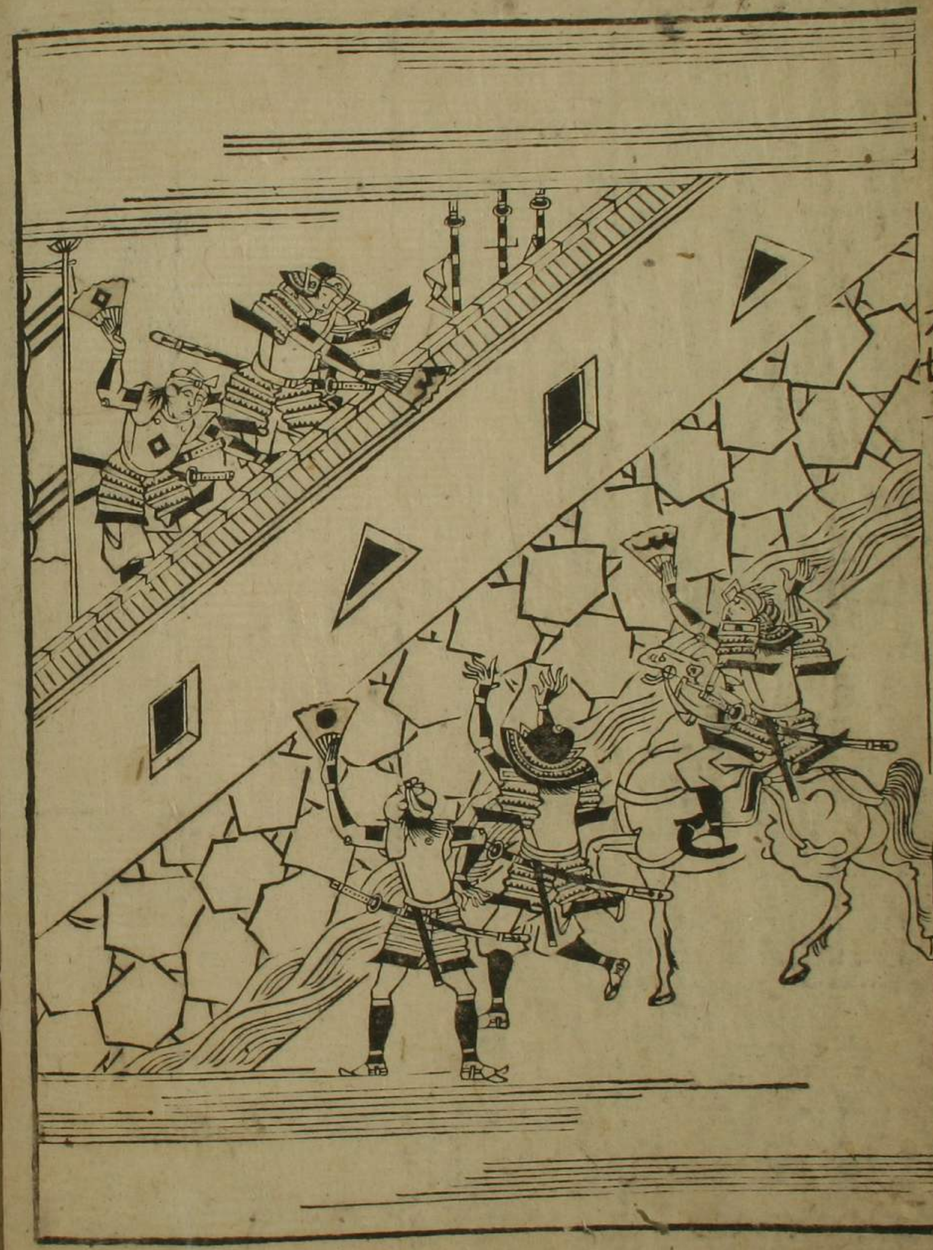
くとあくりぐんとくくこのみとめよ。
ぐるぐ女ん月わきまくこ月よあまりる
ぐ行ぐ月のくへ俵めまりくらくを行ひわや
ぐ月ぐくくくとくとくこ出ん行よりるものくへ
道よまりくくれハぐりひとくまてあ
ぐくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八、三月ハ関ヶ原ニ陣ヲ取ル。ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
九、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
十、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
十一、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
十二、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
十三、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
十四、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
十五、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
十六、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
十七、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
十八、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
十九、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
二十、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
二十一、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
二十二、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
二十三、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
二十四、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
二十五、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
二十六、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
二十七、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
二十八、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
二十九、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
三十、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
三十一、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
三十二、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
三十三、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
三十四、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
三十五、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
三十六、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
三十七、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
三十八、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
三十九、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
四十、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
四十一、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
四十二、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
四十三、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
四十四、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
四十五、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
四十六、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
四十七、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
四十八、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
四十九、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
五十、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
五十一、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
五十二、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
五十三、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
五十四、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
五十五、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
五十六、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
五十七、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
五十八、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
五十九、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。
六十、三月ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。ソノ日ハ城ヲ攻メ、ヒトツノ城ヲ取リ、ソノ日ハ雨降リ、ヒヾキ強シ。



慶長年中にぜんせいおこるまでにあるなりぜんせいきどもてもう
とうばゆうみょうにておるゆへハ二せんせんの下ゆへ敵とかるがだちま
ち天下となりちかのうゆへなりとうとい所ゆめでしぶんにて
みちやうとてとをつぶれゆとたさあるゆへ文武二道の名ゆへ吉
みもまこいゆ。未代ゆへなりぐこ。実になるあぶなのちれていく。
七年めてゆりとうこどちつまやくれつこ年ぞうもるこうもちぢ
めべしぞんといひ信といひぜんりゆへもなゆ勢ゆをだぐひかれ年と
もあるとやうてたさあれハ十二月ゆ六日ゆ。江戸へ出下ゆるをろを
うぐんハいまこぞわこゆみれこうゆとうゆてゆ。汲ゆたをとこ行ゆ
ゆかりしこばぞうぐかりしこをゆれぞゆ六二十年にぐゆハ
くりゆこたまのこ三こまこだぞゆみとふたんちのひゆりことこう
とゆたこたこぞゆわひハ信ゆみゆるこゆ代ゆあるにこ
しすゆしゆれをここぞゆとぞゆぜいとこぞこゆ大ゆ
下こハ信ぞぞわんとんゆでたこるゆこぞたりこゆり